



令和2年6月18日  
統合幕僚監部

令和元年度自衛隊の災害派遣及び不発弾等処理実績について

**1 全般**

令和元年度の災害派遣の派遣件数は449件、総活動人員は延べ約106万人でした。そのうち、主要な災害派遣としては、①令和元年8月の前線に伴う大雨（九州北部豪雨）に係る災害派遣、②令和元年房総半島台風（台風第15号）に係る災害派遣、③令和元年東日本台風（台風第19号）に係る災害派遣、④新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る災害派遣を実施しました。

また、不発弾等処理の実績については、陸上において発見された不発弾等の処理件数は1,441件、処理重量は約33トン、海上における機雷の処理は実績なし、海上におけるその他の爆発性危険物の処理個数は509個、処理重量は約3.5トンでした。

**2 令和元年度の大規模な災害派遣**

(1) 令和元年8月の前線に伴う大雨に係る災害派遣（九州北部豪雨）

8月26日以降、前線の影響で、佐賀県を中心に記録的な大雨となり、河川の氾濫、浸水害、土砂災害などの被害が発生したため、現地活動人員延べ約7,500人（活動人員※延べ約32,000人）により、人命救助、入浴・給食支援などの生活支援、油流出対応等を実施しました。

(2) 令和元年房総半島台風に係る災害派遣（台風第15号）

9月9日未明、房総半島台風により関東地方を中心に多くの地点で最大風速の観測記録を更新し、千葉県・神奈川県等においては、倒木などに伴う大規模な停電・断水といった甚大なインフラ被害や、屋根の破損など多数の家屋被害などが発生したため、現地活動人員延べ約54,000人（活動人員延べ約96,000人）により、停電復旧のための倒木等除去、給水・入浴支援などの生活支援、ブルーシート展張支援などを実施しました。

(3) 令和元年東日本台風に係る災害派遣（台風第19号）

10月12日、東日本台風による大雨に伴い、河川の氾濫や土砂災害が発生するなど、東北地方から関東甲信越地方にかけて広範囲にわたる被害が発生したため、現地活動人員延べ約84,000人（活動人員延べ約880,000人）により、人命救助、給水・入浴支援などの生活支援、災害廃棄物処理などを実施しました。

(4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る災害派遣

新型コロナウイルス感染症対策本部の方針を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止が、特に緊急を要すると判断したことから1月31日～3月16日までの間、現地活動人員約延べ8,700人（活動人員延べ約20,000人）により、中国から帰国した邦人等の宿泊施設における支援活動、クルーズ船（ダイヤモンドプリンセス号）における救援活動等を実施しました。

※ 活動人員とは、現地活動人員に加えて整備・通信要員、司令部要員、待機・交代要員等の後方活動人員を含めた人員数

添付書類：令和元年度自衛隊の災害派遣及び不発弾等処理実績について

# JOINT STAFF PRESS RELEASE

<http://www.mod.go.jp/js/>

## 令和元年度自衛隊の災害派遣及び 不発弾等処理実績について



令和2年6月18日  
統合幕僚監部



# 目 次

## 1 災害派遣

- (1) 令和元年度に実施した主要な災害派遣
- (2) 災害派遣人数の推移
- (3) 災害派遣件数（活動種類別）の推移（過去10年間）
  - ① 急患輸送実績
  - ② 消火活動実績
  - ③ 搜索救助実績

## 2 不発弾等処理

- (1) 陸上において発見された不発弾等処理実績の推移
- (2) 海上における機雷等処理実績の推移

## 3 参考資料（別冊）

- (1) 別紙第1「令和元年8月の前線に伴う大雨に係る災害派遣」
- (2) 別紙第2「令和元年房総半島台風に係る災害派遣」
- (3) 別紙第3「令和元年東日本台風に係る災害派遣」
- (4) 別紙第4「新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る災害派遣」



# 1 災害派遣

---



# 令和元年度に実施した主要な災害派遣

件名	現地活動人員 (延べ)	時期	活動地域	活動内容	備考
令和元年8月の前線に伴う大雨に係る災害派遣 (九州北部豪雨)	約7,500人	8月28日(水) ～10月7日(月)	佐賀県	・人命救助 ・生活支援 ・油流出対応等	・活動人員数(延べ) ※1 : 約32,000人
令和元年房総半島台風に係る災害派遣 (台風15号)	約54,000人	9月10日(月) ～10月4日(金) ※2	・千葉県 ・神奈川県	・倒木除去 ・生活支援 等	・活動人員数(延べ) ※1 : 約96,000人
令和元年東日本台風に係る災害派遣 (台風19号)	約84,000人	10月12日(土) ～11月30日(土)	12都県	・人命救助 ・生活支援 等	・活動人員数(延べ) ※1 : 約880,000人
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る災害派遣	約8,700人	1月31日(金) ～3月16日(月)	・神奈川県 ・埼玉県 ・千葉県	・宿泊支援 ・医療支援 等	・活動人員数(延べ) ※1 : 約20,000人

※1 活動人員とは、現地活動人員に加えて整備・通信要員、司令部要員、待機・交代要員等の後方活動人員を含めた人員数

※2 千葉県においては、房総半島台風に係る災害派遣に続けて、東日本台風に係る災害派遣を実施しているため、部隊が展開した期間を掲載

令和元年8月前線に伴う大雨



細部は、別紙第1を参照

令和元年房総半島台風



細部は、別紙第2を参照

令和元年東日本台風



細部は、別紙第3を参照

新型コロナウイルス感染症

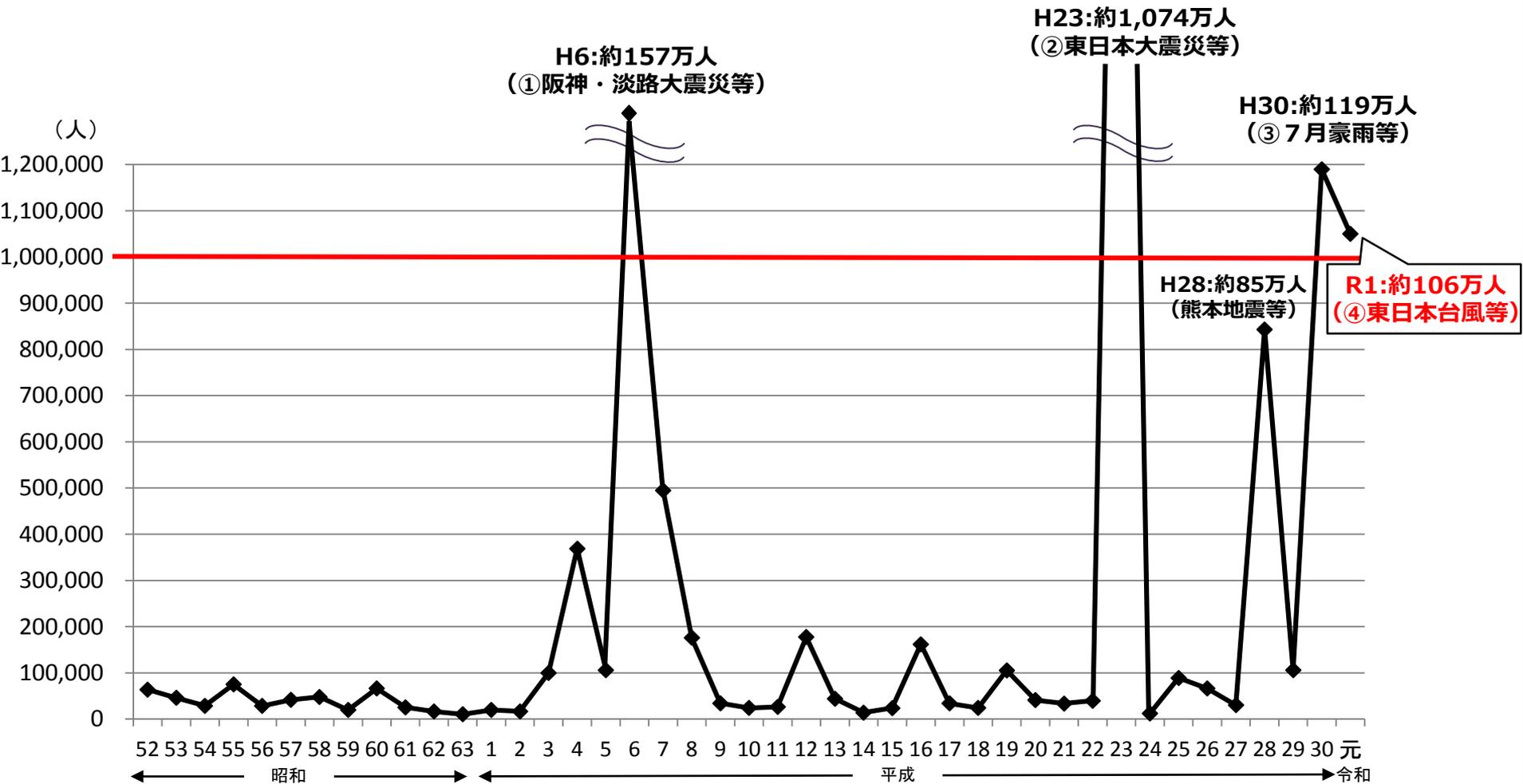


細部は、別紙第4を参照



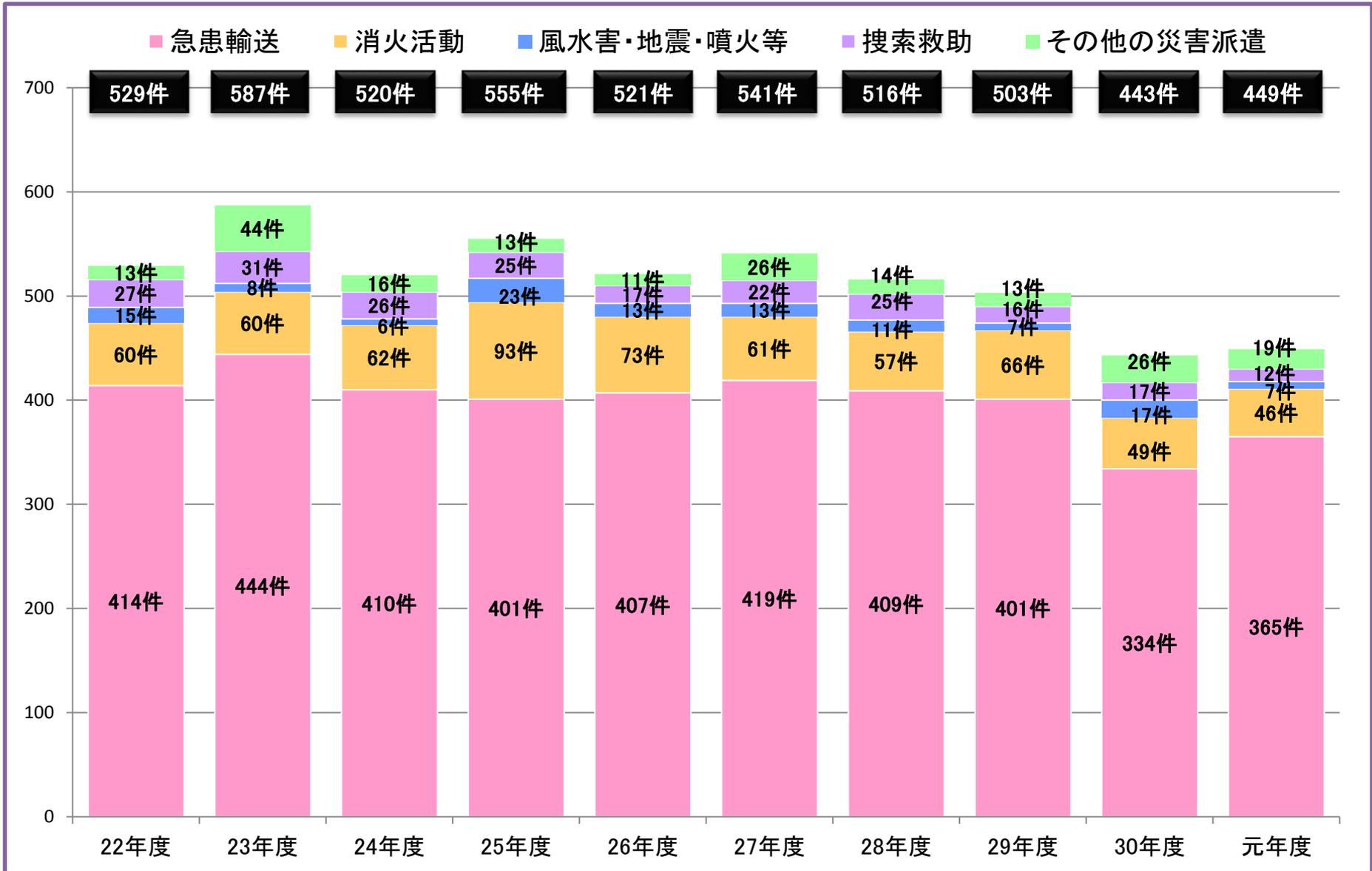
# 災害派遣活動人員数の推移

令和元年度は、延べ活動人員 **106万人** をもって災害派遣活動に従事。延べ活動人員が100万人を超えるのは、記録のある昭和52年以降、**4度目**であり、平成30年度に引き続き **2年連続**





# 災害派遣件数（活動種類別）の推移（過去10年間）





# ① 急患輸送実績

■ **令和元年度総件数： 365件**

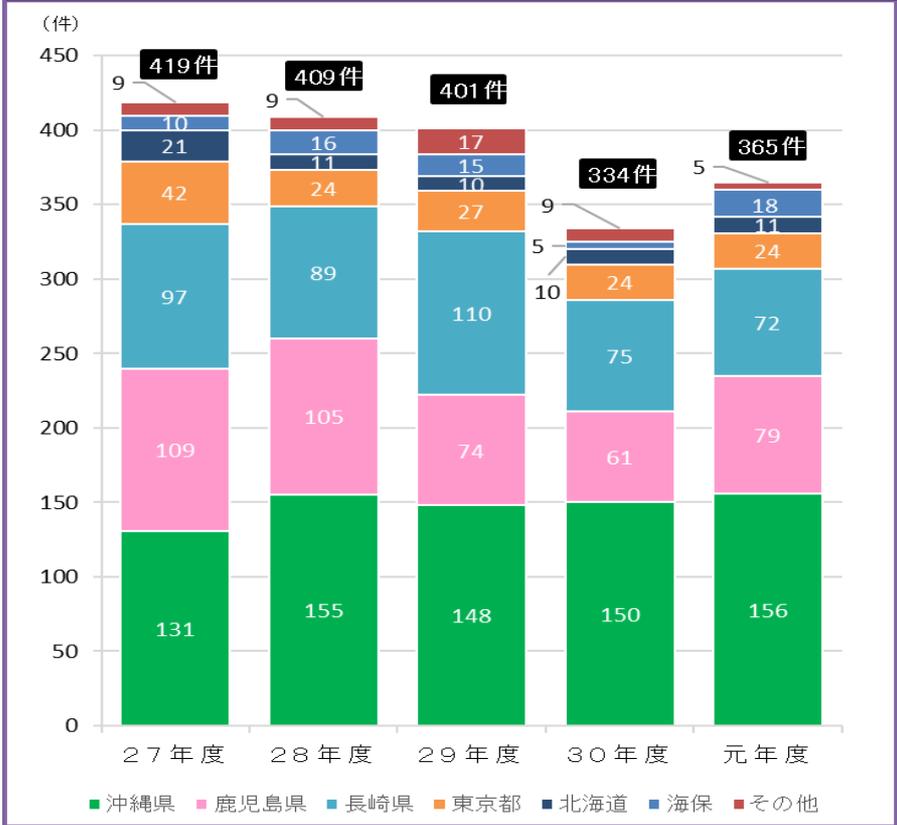
例年同様、島しょ地域の多い県（沖縄県、鹿児島県及び長崎県）からの要請の占める割合が大



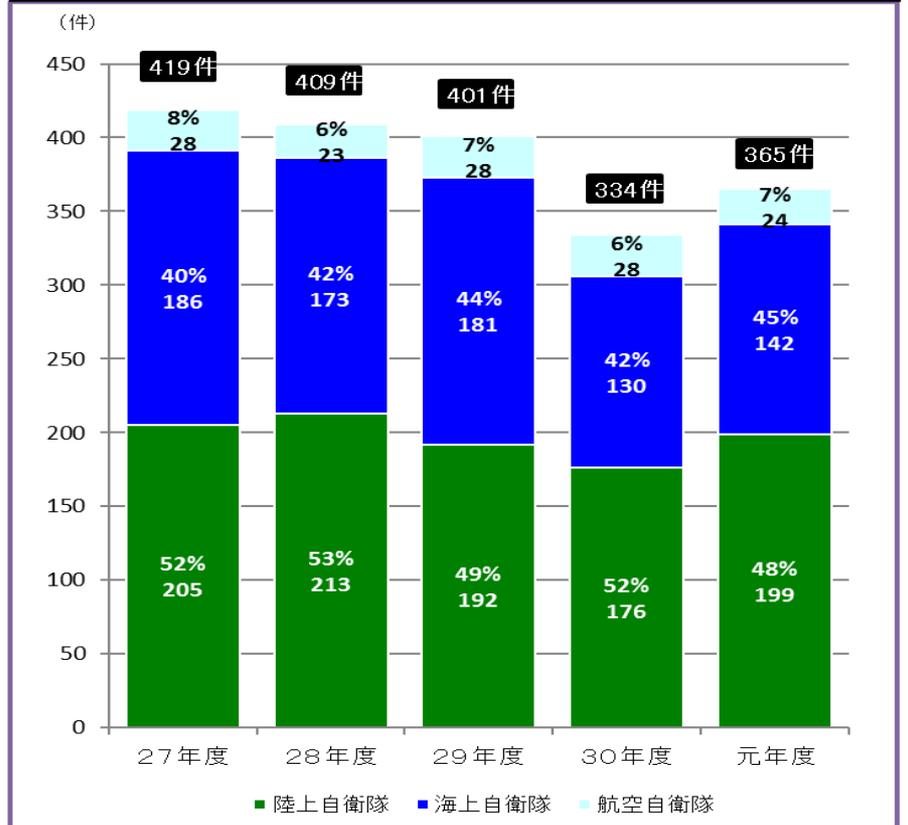
海自SH-60への患者搬入

空港到着後の患者搬送

## 件数及び要請都道府県等別実績推移



## 陸・海・空自衛隊別実績推移



## ② 消火活動実績

- **令和元年度総件数 : 46件**
- **近傍火災の件数が減少する一方、山林火災の件数が増加**

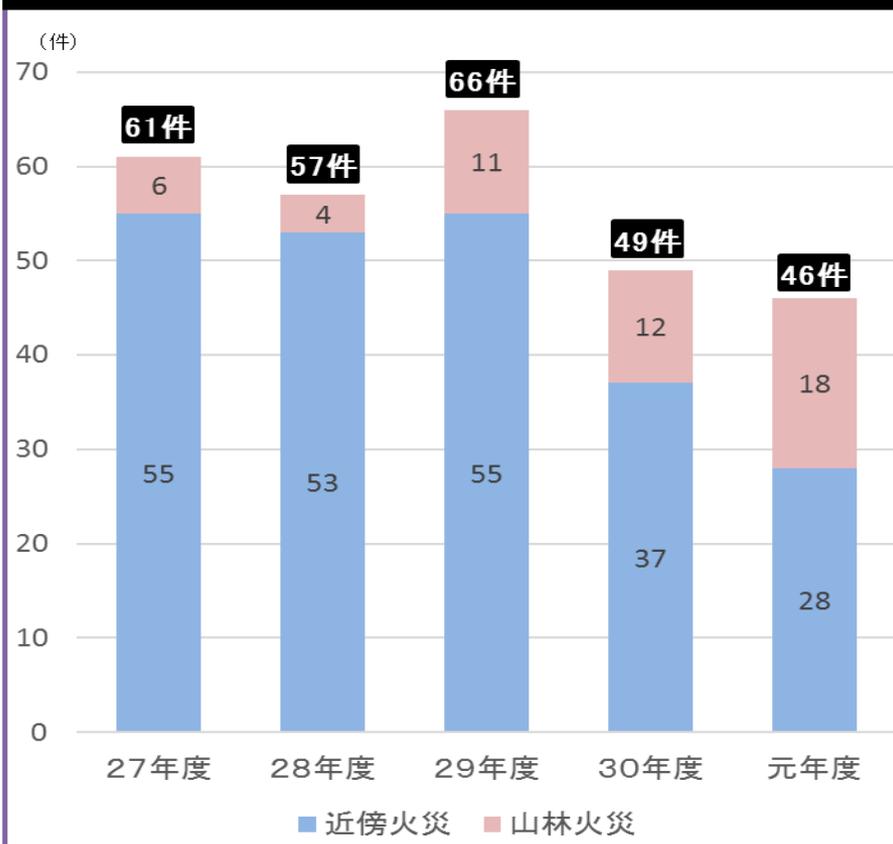


空中消火中の陸自UH-1J

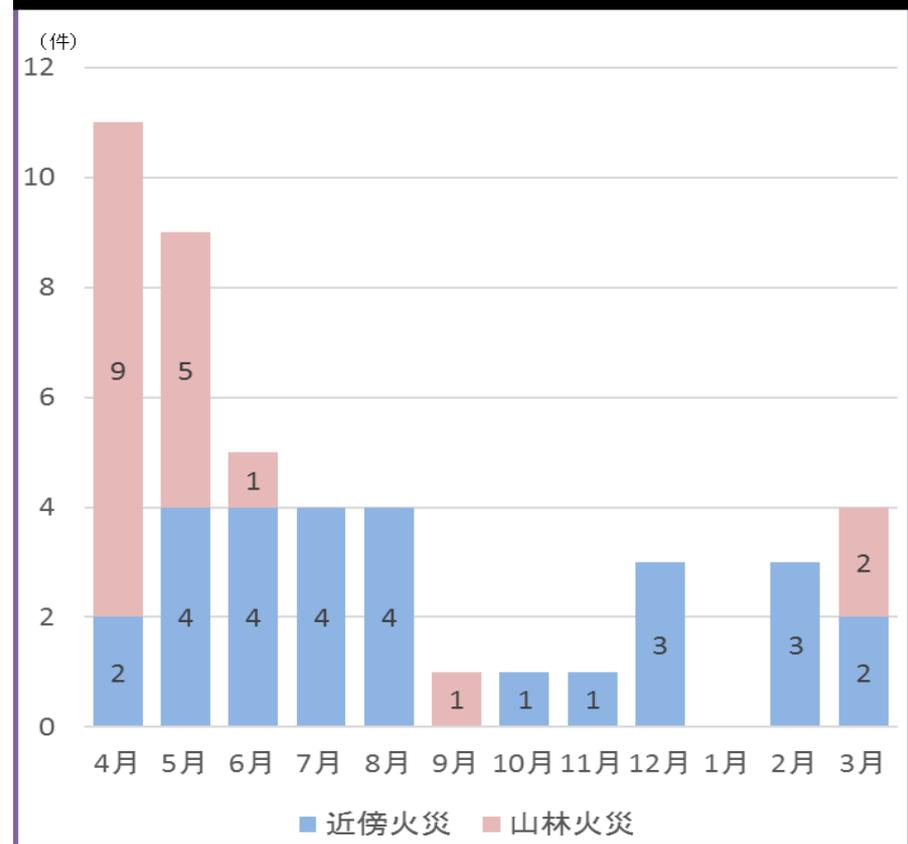


地上消火中の陸自隊員

### 件数年度別実績推移 (過去5年間)



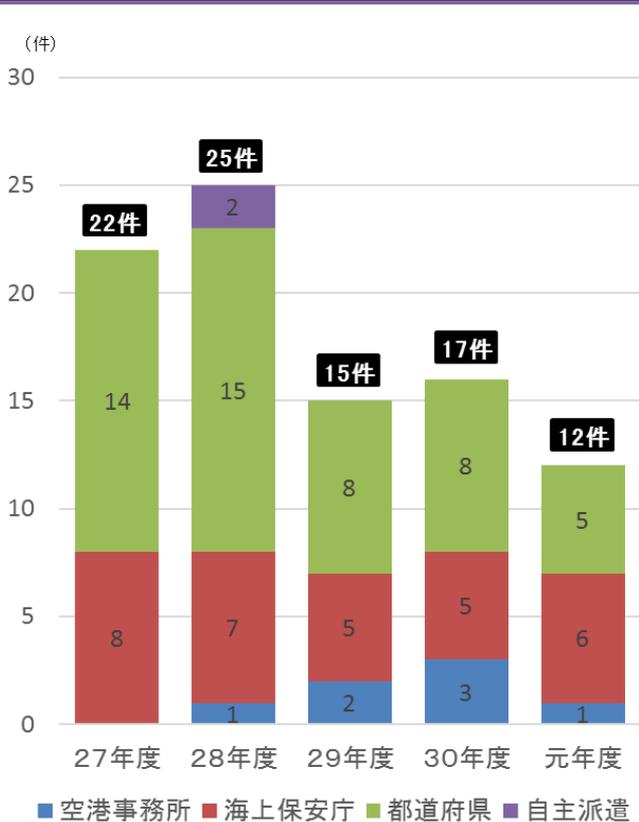
### 令和元年度の活動件数月別実績



### ③ 搜索救助実績

■ **令和元年度総件数：12件**  
**例年に比し、搜索救助支援の件数は減少**

件数年度別実績推移（過去5年間）



行方不明者搜索



遭難船舶搜索

令和元年度の要請機関別実績：12件

区分	件数	要請元	種類	主な活動部隊
都道府県	5件	宮城県知事 山梨県知事 大阪府知事 宮崎県知事 北海道知事	行方不明者 搜索	第22即応機動連隊(多賀城)、第1後方支援連隊(練馬)、第1通信大隊(練馬)、東部方面航空隊(立川)、東部方面情報処理隊(朝霞)、第37普通科連隊(信太山)、第2特科連隊(旭川)、新田原救難隊(新田原)等
海上保安庁	6件	第一管区、 第二管区、 第三管区、 第八管区、 第十一管区 海上保安本部長	・行方不明者 搜索 ・遭難船舶搜索 ・遭難航空機 搜索	第2航空群(八戸)、第21航空群(館山)、第4航空群(厚木)、潜水医学実験隊(横須賀)、舞鶴警備隊(舞鶴)、第25航空隊(大湊)、第2潜水隊群(横須賀)、那覇救難隊(那覇)等
空港事務所	1件	東京空港事務所 長	行方不明者 搜索	新潟救難隊(新潟)、小松救難隊(小松)



## 2 不発弾等処理

---



# 陸上において発見された不発弾等処理実績の推移

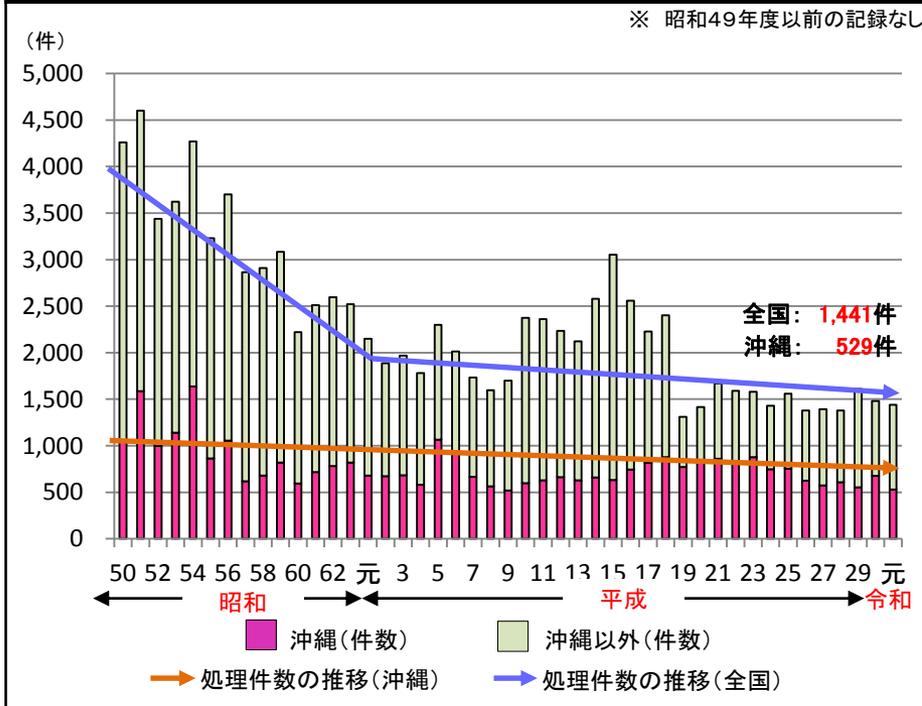
## ■ 全国： 処理件数 1,441件、処理重量約33トン

- 記録のある昭和50年度以降、戦後の時間経過に伴い、処理件数・処理重量ともに減少
- 平成以降、全体としての処理件数は概ね一定

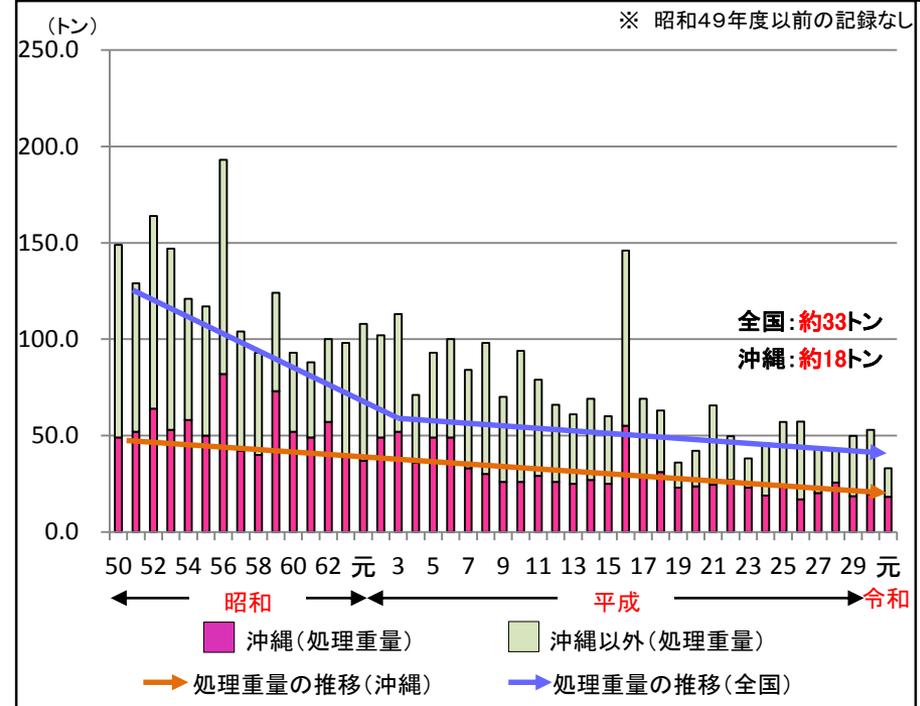
## ■ 沖縄： 処理件数 529件、処理重量約18トン

- 記録のある昭和50年度以降、沖縄県では処理件数及び処理重量ともに減少
- 処理件数及び処理重量ともに**沖縄県の全国に占める割合が大きく、令和元年度は処理件数の約37%、処理重量の約55%**

### 不発弾等処理件数の推移



### 不発弾等処理重量の推移



# 処理等の景況



不発弾の識別



定期回収

(離島で発見された不発弾を警察から回収)



不発弾の引き上げ

(安全化した不発弾を壕内から引き上げ)



爆破処分準備

(安全化した不発弾を爆破薬により処分)



# 海上における機雷等処理実績の推移

## ■ 機雷：実績なし

○ 記録のある昭和50年度以降、戦後の時間経過に伴い、処理個数は年度ごと異なるが、**処理重量は減少傾向**

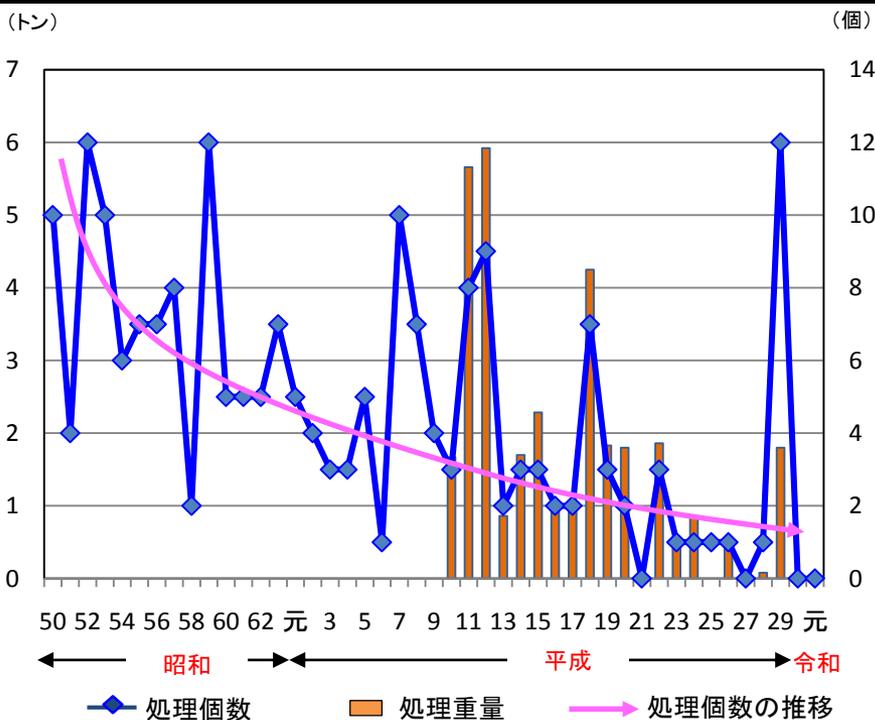
○ 平成21年度、27年度、30年度及び令和元年度以外は、毎年度処理実績あり

## ■ その他の爆発性危険物（魚雷、爆雷、爆弾、砲弾等）：処理個数509個、処理重量約3.5トン

○ 処理重量は、阪神・淡路大震災の港湾復旧作業時に大量の爆発性危険物が発見された平成7～8年度をピークとして、平成9年度以降は低い水準で推移

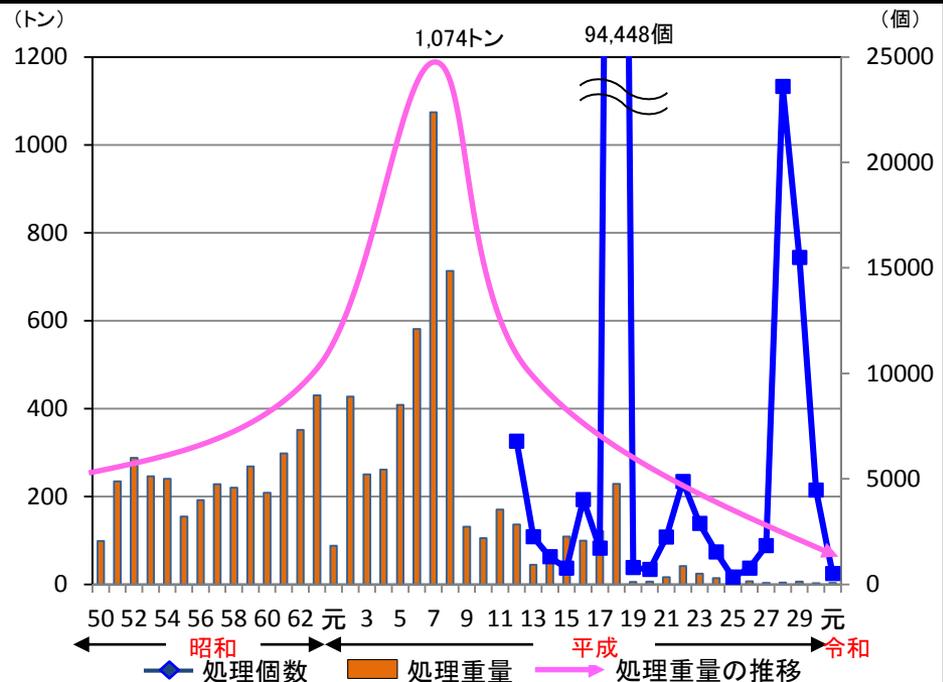
○ 処理個数は、年度による変動が大きく、港湾工事において大量に発見されるケース（18年度：舞鶴西港）があり、28年度は横須賀港の工事において大量の砲弾等を発見

### ① 機雷の処理個数及び重量の推移



※ 昭和49年度以前の記録なし  
 ※ 平成9年度以前の処理重量に関する記録なし

### ② その他の爆発性危険物の処理個数及び重量の推移



※ 平成7～8年度は、阪神・淡路大震災の港湾復旧作業において砲弾等が大量に発見されたため、処理重量が大  
 ※ 平成18年度は、舞鶴西港の浚渫工事において、旧軍小火器弾が大量に発見されたため、処理個数が大  
 ※ 昭和49年度以前の記録なし ※ 平成11年度以前の処理個数に関する記録なし

# 処理の景況



爆薬の装着状況



爆破の景況

# JOINT STAFF PRESS RELEASE

<http://www.mod.go.jp/js/>

## 令和元年度自衛隊の災害派遣及び 不発弾等処理実績について 【別紙綴り】



令和2年6月18日  
統合幕僚監部

# 令和元年 8 月の前線に伴う大雨（九州北部豪雨）に係る災害派遣

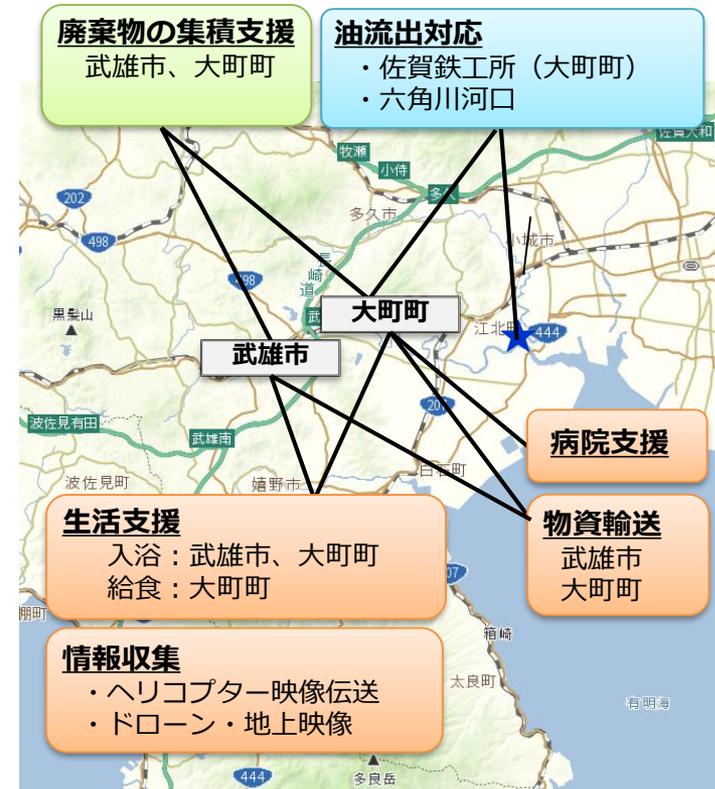
全般

- 8月26日以降、前線の影響で、佐賀県を中心に記録的な大雨となり、河川の氾濫、浸水害、土砂災害などの被害が発生したため、8月28日、佐賀県知事から西部方面混成団長（久留米）に対し、災害派遣要請
- 現地活動人員延べ約7,500人(活動人員延べ約32,000人)により、人命救助、入浴・給食支援などの生活支援、油流出対応等を実施
- 9月11日、佐賀県に災害復旧・復興推進本部会議が設置され、主に生活支援に関わる災害派遣活動に移行
- 10月7日、佐賀県知事から西部方面混成団長（久留米）に対し、撤収要請

## 主な活動内容

- **人命救助**（8.28～8.29）  
延べ約150名を救助
- **入浴支援**（8.30～10.6）  
延べ約4,200名利用
- **給食支援**（8.30～9.5、9.8～9.22）  
延べ約4,400食を給食
- **油流出対応**（8.28～9.10）  
佐賀鉄工所（大町町）周辺、六角川河口における油吸着マットの設置・回収、油吸着マットの輸送等を実施
- **家庭からの廃棄物の集積支援**（8.30～9.6、9.8）
- **防疫支援**（9.3～9.6）
- **避難所への物資輸送（食料・水・I7JN）**（8.28、9.2）
- **情報収集**（8.28～9.10）  
ヘリ映像伝送機等による情報収集及び関係機関への情報提供

## 活動概要





# 令和元年8月の前線に伴う大雨（九州北部豪雨）に係る災害派遣



油流出対応  
(油吸着マットの設置)



油流出対応  
(油吸着マットの輸送)



廃棄物の集積支援



防疫支援



# 令和元年房総半島台風（台風15号）に係る災害派遣

全般

- 9月9日未明、房総半島台風(台風第15号)により関東地方を中心に多くの地点で最大風速の観測記録を更新、千葉県・神奈川県等においては、倒木などに伴う大規模な停電・断水といった甚大なインフラ被害や、屋根の破損など多数の家屋被害などが発生
- 9月10日、千葉県知事から災害派遣要請（給水支援、停電復旧のための倒木・土砂除去等、入浴支援等）
- 9月10日、神奈川県知事から災害派遣要請（停電復旧のための倒木除去等）
- 9月15日、東電本社に連絡員を派遣し、16日に東電本社及び千葉県内6カ所に自衛隊・東電共同調整所を設置
- 9月17日、約3,000人で倒木除去を継続的に行うため、ローテーションの実施を含め、最大で10,000人で対応できる態勢を確立
- 現地活動人員延べ約54,000人(活動人員延べ約96,000人)により、停電復旧のための倒木等除去、給水・入浴支援などの生活支援、ブルーシート展張支援などを実施
- 11月5日、千葉県知事からの災害派遣撤収要請を受け、全ての災害派遣活動が終了

## 主な活動内容

- **停電復旧のための倒木等除去** (9.10~9.27)
  - ・ 計43市町、延べ約35,600人派遣
- **給水支援（病院・一般住民向け）** (9.10~9.25)
  - ・ 計23市町、延べ約1,300 t
- **入浴支援** (9.11~9.25)
  - ・ 計14市町、延べ約28,000名利用
- **ブルーシート展張支援** (9.15~9.30、10.3、10.4)
  - ・ 計27市町、延べ約1,820箇所
- **患者輸送** (9.10、9.14)
  - ・ 患者計12名を木更津等から柏・松戸の病院へ搬送を実施
- **輸送支援**
  - ・ 秋田県、徳島県、香川県及び熊本県の倉庫から千葉県へ約12,000枚のブルーシートを輸送 (9.15~9.16)
  - ・ 館山市に集積された約2,000個のLEDランタンを八街市へ輸送 (9.17)
- **災害廃棄物処理** (9.26.27)
  - ・ 館山市において道路に飛散した瓦礫の除去を実施
- **情報収集** (9.10、9.11、9.13~9.28)
  - ・ ヘリ映像伝送機、ドローン等による情報収集

## 活動概要



## 連絡員（リエゾン）等の派遣

- 千葉県庁等に最大時（9.21）約90名の連絡員を派遣（9.9~11.5）
- 最大時（9.21）約50名の連絡員を東京電力本社及び6事業所に派遣し、共同調整所を設置（9.16~9.27）
- 千葉県所在部隊が追加支援要望等の確認のため、各自治体を巡回（10.1~10.7）



# 令和元年房総半島台風（台風15号）に係る災害派遣



倒木等除去



倒木等除去



ブルーシート展張



給水支援



# 令和元年東日本台風（台風19号）に係る災害派遣

全般

- 10月12日、東日本台風（台風第19号）による大雨に伴い、河川の氾濫や土砂災害が発生するなど、東北地方から関東甲信越地方まで広範囲にわたる被害が発生。現地活動人員延べ約84,000人(活動人員延べ約880,000人)により、人命救助、給水・入浴支援などの生活支援などを実施
- 10月12日以降、12都県知事からの災害派遣要請を受け、陸上総隊司令官を指揮官とした**統合任務部隊を編組**し、31,000人態勢（11月8日:陸自東北・東部方面隊による態勢に移行）
- 10月14日、予備自衛官・即応予備自衛官を招集（11月9日招集終了。出頭者数計：即応予備自衛官368名、予備自衛官53名）
- 最大、12都県で実施していた活動は逐次終了し、11月30日、長野県知事からの撤収要請を受けて全ての活動を終了（現地活動人員：最大時約5,500名（10月20日））

## 統合任務部隊の編成

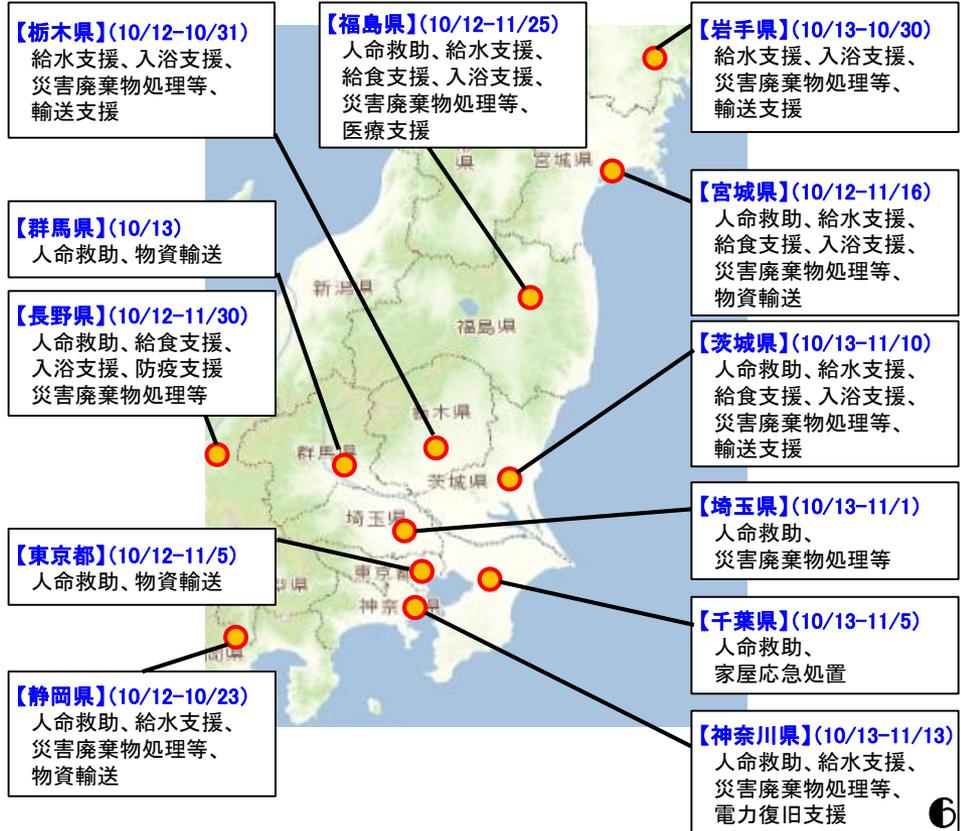


約31,000名

JTF司令部 陸上総隊司令部 人員 約360名	陸災東北方部隊 東北方面總監 人員 約10,000名	陸災東南方部隊 東部方面總監 人員 約14,500名	海災部隊 横須賀地方總監 人員 約3,000名	空災部隊 航空総隊司令部 人員 約3,500名
-------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

航空統制・調整所 輸送調整所 生活支援調整所 海災LO 空災LO	使用アセットの概要(一例)			
	輸送等	人命救助・捜索	生活支援	廃棄物等除去
	DDH「いずも」 MCH101	渡河ポート 水中処分ポート	SH-60 UH-60	水トレーラー 入浴セット 水タンク車 炊事車 バケットローダ

## 活動概要



活動内容	実績（延べ数）
人命救助	約2,040名
給水支援	約7,030 t
入浴支援	約70,230名利用
給食支援	約50,360食
災害廃棄物処理・道路啓開	約95,580 t・約100 km
防疫支援	約349,950㎡
ブルーシート展開	約1,040軒



# 令和元年東日本台風（台風19号）に係る災害派遣



人命救助



給食支援



災害廃棄物処理



「くにさき」から空自給水車への給水

# 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る災害派遣



- 全般
- 新型コロナウイルス感染症対策本部の方針を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止が、特に緊急を要すると判断したことから現地活動人員約延べ8,700人(活動人員延べ約20,000人)により、医療支援、生活支援、輸送支援等を実施
  - 1月31日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための救援に係る災害派遣の実施に関する自衛隊行動命令を発出、チャーター便により中国から帰国した邦人等の宿泊施設において支援活動を開始
  - 2月7日、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」(大黒ふ頭)において支援活動を開始
  - 2月13日、予備自衛官の招集に関する自衛隊行動命令を発出
  - 3月1日、クルーズ船から全乗員が下船を完了。(帰国又は停留施設に移送完了)
  - 3月8日、税務大学校での生活支援・健康管理支援を終了
  - 3月16日、災害派遣及び予備自衛官の活動を終結させる大臣命令を発出

## 1 クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への対応について

延べ活動人員：約2,700名

医療支援 (2月7日～26日) 【延べ 約690名】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自衛隊医官等による船内での医療活動(健康相談、診察、薬の処方・仕分け、PCR検査等)(2月7日～23日)</li> <li>○ 患者の搬出支援(2月7日～26日)</li> <li>○ 自衛隊救急車による陽性患者の搬送支援【累計：96名】(2月7日～25日)</li> <li>○ PCR陽性患者の愛知県内の医療施設への搬送支援【累計：128名】(2月18日～20日、25日～26日)</li> </ul>
生活支援等(船内) (2月9日～3月1日) 【延べ 約1,300名】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活物品等の物資の搬入・仕分け、船内の共同区画の消毒支援等</li> </ul>
下船者の輸送支援 (2月14日～3月1日) 【延べ 約290名】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 下船を希望するハイリスク者(基礎疾患保有者、高齢者等)、経過観察が必要な陰性者、帰国しない乗員(陰性者)を宿泊施設(税務大学校)へ輸送【累計：382名】(2月14日～3月1日)</li> <li>○ チャーター機に搭乗する乗客等の帰国者(米、豪、加、イスラエル、伊及びEU諸国、英)及び手荷物を羽田空港に移送【累計：707名】(2月16日～22日)</li> <li>○ チャーター機に搭乗する乗員等の帰国者(比、印、インドネシア)及び手荷物を羽田空港に移送。【累計：638名】(2月25日～3月1日)</li> <li>○ 乗客の下船時の荷物搬出支援</li> </ul>
統合現地調整所 (2月6日～3月1日) 【延べ 約420名】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本省審議官級を長とし、現地における関係機関等との調整を実施。</li> </ul>

※ 隊員の活動拠点として、PFI船舶「はくおう」(2月6日～3月16日)及び民間フェリー「シルバークイーン」(2月15日～2月25日)を利用



# 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る災害派遣

## 2 宿泊施設における支援

延べ活動人員：約2,200名

生活支援 (1月31日～3月8日) 【延べ約2,000名】	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 経過観察が必要な帰国邦人等（チャーター機第2便～第5便）やクルーズ船からの下船者の宿泊施設において、生活支援を実施（物資の配布、食事の配膳、問診票の回収等）<ul style="list-style-type: none"><li>・ チャーター機（第2便～第5便）での帰国邦人等の支援（1月31日～3月4日）</li><li>・ クルーズ船からの下船したハイリスク者（基礎疾患保有者、高齢者等）の支援（2月14日～19日）</li><li>・ クルーズ船から下船した経過観察が必要な陰性者の支援（2月22日～3月8日）</li></ul></li><li>※ 税務大学校、厚生労働省保健医療科学院、財務省税関研修所において活動</li></ul>
健康管理支援 (2月5日～3月8日) 【延べ約170名】	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 各宿泊施設において、医官1名・看護官2名等の態勢で回診、診療等を実施</li><li>※ 予備自衛官の看護師も、健康状態のチェック等の業務を実施</li></ul>

※ このほか、チャーター機における検疫支援活動に、隊員（看護官）延べ4名が従事

## 3 自衛隊病院等への陽性者の受け入れ

延べ活動人員：約3,800名

- 自衛隊病院等の活動として、PCR検査陽性者の受け入れを実施（3月16日までに、133名の陽性患者を受け入れ）

## 4 指揮所要員等

延べ活動人員：約11,500名

- 各駐屯地等において、部隊間の連絡・調整及び後方支援業務を実施

※ このほか、各種支援後の停留要員を含む。



# 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る災害派遣



医療支援



生活支援



輸送支援



自衛隊中央病院への陽性者の受け入れ